

会社を守る＝社員を守るという第一目的のため、4年前より災害対策に取り組んできたパイオニア株式会社。mcAccess e を選んだその理由を、危機管理責任者にうかがった。



今回のユーザー

パイオニア株式会社 様

(東京都目黒区)

mcAccess e 導入：平成19年9月
 利用局数：12局
 利用周波数/方式：
 800MHz帯/デジタル (mcAccess e)
 利用サービス：ワイドエリア利用
 (平成19年11月16日現在)

MCA無線導入で、社内の意識向上を

災害時の通信手段を求めて (事業継続：BCPのポイント)

今から4年前、パイオニアは経営の大きな障害となる不測の事態について、危険度を判断し対応策を講じていくリスクアセスメントに全グループを挙げて取り組み始めた。



総務部CSR推進室 危機管理担当 副参事 **いよべ 真**さん
 「mcAccess e はさまざまな使い方ができますが、いくつもの通信ツールと比較検討し、災害時の通信手段として総合的に優れている点の評価しました。実際に使い勝手がいいことがわかったので、来期にかけてさらに設置場所や台数を増やしていくつもりです」

そこで浮かび上がったのが、自然災害の中でも特に地震がもたらすリスクが極めて大きいという事実である。このときから、総務部の危機管理責任者である伊豫部さんには、いざというときに連絡がとれる無線通信手段が必要だと思いが常にあった。

震災時の通信手段が電話では不十分であることは、会社としても以前に経験している。過去、関連会社があった地域で震度4クラスの地震が発生した際、すぐに現地へ電話して被害を確認した。ところが20分後に再びかけたときには、もう通信規制でつながらなかったのだ。

災害が起きたとき、いかに情報を社内で共有し、企業としてすばやく意思決定ができるかが、被害を最小限に抑え業務の早期回復・継続を促す最大のポイントとなる。

「何より、素早く被災地の情報を得なければ次の対策もとれません。『確実な通信手段』

を求めて危機管理産業展を毎年見て回り、そこで出展されていた mcAccess e が目に留まりました」

さらに阪神・淡路大震災などの災害時にも安定して稼働したMCA無線の実績を知った伊豫部さんは、ためらうことなく導入を決めたという。

危機管理のための通信システムの体制づくり

こうしてパイオニアは2007年9月、関東圏の10カ所に12台の mcAccess e を設置した。東京目黒区の本社には1階の防災センターに1台、9階の総務部にハンディタイプが1台置かれている。このほか川越、川崎、大森、鶴ヶ島の各事業所と関連会社3社で、相互に mcAccess e を使って通信ができる環境が整った。事業所や関連会社でも、24時間人が常駐する防災センターに主に



1. 多くのお客様が訪れるショールームが設けられた本社ビルでは、より高い防災レベルが求められる。伊豫部さんは総務部用のハンディタイプを携帯して社内外を見回ることが多い。2、3. mcAccess e が備えられた防災センター。4. 本社ビルの外に設置された外部アンテナ。

設置している。JR山手線目黒駅前に位置する本社は、建物が他のビルと隣接しているため電波条件がいいとはいえないが、外部アンテナを設置して感度を上げることで問題なく稼働している。

音質が高く、コスト面での負担が低いことに加え、操作が簡単で社内の誰にでも扱えるという点も導入の大きな理由となった。現在、総務部の社員は全員が非常時に備えた操作レクチャーを受けている。

他の事業所などへの増設が予定される中、同時に社長の車への設置も検討中だ。いざというとき企業の意思決定を行うのは社長であり、すでに社長が普段から出向く先にはすべて mcAccess e が置かれている。しかし、都内で大地震が発生すれば交通機関は止まり、無線のある事業所へ向かうことさえ困難となるだろう。そうした事態にも備え、社長の車や自宅にも mcAccess e が必要になる。さらに、危機管理責任者である伊豫部さんの自宅に置くことも検討されているという。また、社内からは「一般の電話からもアクセスしたい」との要望が上がっているようだ。電話回線と mcAccess e を連携することは可能なので、これも今後に向けた展開事項の一つとなっている。

防災意識の向上には個々人の取り組みも不可欠

この他にパイオニアでは衛星電話も採用し、国内は mcAccess e、海外関連会社とは衛星電話と、通信場所や目的により使い分けしている。さらに地震が起きた際の帰宅困難者の発生を想定して会社で備蓄品を用意し、携帯電話を通じて安否確認を行うネットワークも構築した。

「会社を守るということは、人と施設を守ること。同社が、高い危機管理意識のもと社員を守る施策に取り組む根底にはこの思いがある。しかし、「人を守る」には個々人の意識向上もまた必要不可欠だ。

「静岡の事業所では東海大地震の発生が常に念頭にあり、みんな確実に『明日、地

震が起きるかもしれない』という危機意識を持って毎日を過ごしています。地域差は当然ありますが、東京でもそのくらいの危機感を持たなくては」と話す伊豫部さんは、デスクの下に水を用意し、歩いて帰宅できるようにスニーカーも置いてある。こうした備えが社内で当たり前になれば、防災訓練の効果もより高くなるに違いない。

パイオニアでは今後、全社で年1回実施している総合防災訓練の他に、3カ月に1度は mcAccess e を使った訓練も行う予定である。有事に活用する備えとしてはもちろん、実際に操作を体験する機会が増えるほど、防災意識もより高まるはずだ。その意味でもこのツールが果たす役割は大きいといえる。

パイオニア株式会社



「いい音を多くの人に届けたい」という思いから、1937年にスピーカーメーカーとしてスタートしたパイオニア株式会社。世界で初めてセパレートステレオやコンポーネントカーステレオを発売し、1970年代後半にはレーザーディスクにより映像の世界に参入、カラオケ用システムで一大市場を開拓した。1990年に世界初のGPSカーナビゲーションシステムも世に送り出している。現在はプラズマディスプレイ、5.1チャンネルサラウンドシステムといった高精細、高音質の分野で最先端をいく製品を提供中。その企業姿勢は良い音と、美しい映像で「より多くの人と、感動を」というグループ理念により貫かれている。

所在地：東京都目黒区目黒1-4-1
 (本社/他に大森、川崎、川越などに事業所あり)
 URL：http://pioneer.jp